学校番号	401

令和２年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	世界史Ｂ	単位数	３単位	年次	３年次
使用教科書	「世界史Ｂ」　（東京書籍）						
副教材等	「グローバルワイド」最新世界史図表三訂版（第一学習社）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

板書・説明・資料プリントをよく把握する。
抽象的な概念を具体化し、現代史に照らし合わせる。
用語を覚えるだけではなく、流れを説明できるようにする。

２　学習の到達目標

後世に影響を与えた歴史的事象を把握し、現代世界の有り様を理解する。また、将来への展望を持ち、国際社会に生きる個人としての自覚と資質を養う。
そのために学習内容が単なる暗記にとどまることのないように注意していく。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	・それぞれの歴史的事象について積極的に現代や自分のことと繋げて考えようとしている。 ・グループワークなどに積極的に参加している。	・歴史の用語を覚えるだけではなくその背景や、現代とのつながり、身近な世界とのかかわりを考察し、適切に表現できている。	・資料や図版を正確に読みとる。	・それぞれの歴史的事象を背景なども含めて理解できている。 ・現代社会の諸問題について個々の歴史的事象に関連させながらの知識を身につけている。
評価方法	定期考査 ワークシート グループワークへの参加度	定期考査 ワークシート	定期考査 ワークシート レポート発表	定期考査 ワークシート

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	C	d		
1学期	第1編・第2編　さまざまな地域世界・広域世界の形成と交流	文明以前の人類 オリエント世界・地中海世界・西アジアの古代文明 南アジア・東アジア・中央ユーラシア・東南アジア世界の形成 アフリカ・オセアニア・古アメリカの地域世界 イスラーム世界の形成と発展	○	○	○	○	a:古代世界の形成について、それぞれの地域の共通点や相違点を理解しようとしている。 b:現代と比べて神の力、神話などが大切にされていることなど、現代との違いを考察できており、ワークシートやグループワークなどで適切に表現できている。 c:建造物などの資料をみて、その時代に、大切に重要視していたことなどを把握できている。 d:古代世界の神権政治や中央集権制などの意義を理解している。古代諸地域の歴史の流れを把握している。	定期考査 ワークシート グループワークへの参加度

2学期	第2編・第3編　広域世界の形成と交流・一体化する世界	ヨーロッパ世界の形成 東アジア世界の変容とモンゴル帝国 海域世界の発展と東南アジア 大交易時代 ユーラシア所帝国の繁栄 近世ヨーロッパ世界 欧米における工業化と国民国家の形成	○	○	○	○	a:近世の世界の動きについて、積極的に理解しようとしている。 b:古代以来の神中心の世界から、人間中心の世界になり、革命を経て国民国家という概念が出てきたことを考察し、適切に表現できている。英仏を中心に植民地を広げていき、近代世界システムをつくることで世界の一体化が成し遂げられたことを理解し、考察できている。 c:ルネサンスの絵画などから当時の生活や、神中心から人間中心に変わっていく過程を読み取っている。 d:近世～近代の歴史を把握し、現代世界との共通点や相違点を理解できている。	定期考査 ワークシート レポート発表 グループワークへの参加度
3学期	第4編　地球世界の形成と課題	資本主義の発展と帝国主義 アジア諸地域の変革運動 世界戦争の時代 戦後世界秩序の形成 情報革命と世界経済の一体化	○	○	○	○	a:現代世界について、今の国際社会が作られた背景を積極的に理解しようとしている。 b:現代社会の諸問題の直接的原因を思考し、表現できている。 c:映像資料なども見て世界大戦の様子をより深く把握できている。 d:現代の歴史を把握し、今の国際社会が作られた背景を理解できている。	定期考査 ワークシート レポート発表 グループワークへの参加度

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:資料活用の技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。